

審査結果の要旨

論文提出者氏名 サンジブ・バルア

論文題目 Healthcare Design For Disaster Mitigation in Coastal
Cities of Bangladesh
(バングラデッシュの沿岸都市における災害軽減の医療施設に関する研究)

この論文は、バングラデッシュの沿岸都市におけるプライマリーヘルスケア施設として、災害時ならびに平常時に有効な施設計画・設計を最終目的として、医療施設と小学校施設の複合的施設計画を実現するための適切な検討項目を抽出し、検証することを目的としている。

本論文は、第I章「序論」、第II章「理論構成」、第III章「ケーススタディ」、第IV章「討論・結論」、からなる4章より構成される。

第I章「序論」では、研究の目的・視点・背景・意義を述べている。

第II章「理論構成」は12節に分かれる。

第1節では、災害の定義を述べている。第2節では、ヘルスケアの分野での災害の軽減の必要性、第3節では、災害の管理における研究とその評価、第4節では、バングラデッシュの沿岸都市における災害の事例とリスク評価について論じている。第5節では、世界保健機構の評価研究とバングラデッシュにおける保健医療水準について触れている。第6節では、バングラデッシュの沿岸都市での災害時の各種対策施設の評価を小学校に併設された災害時診療施設（PSSC）と都市部におけるプライマリーケアユニット（UPHCP）についてその働きを支える多様な組織を紹介し、活動の概要を論じている。第7節では、既存の医療施設を災害時ならびに平常時ともに機能する施設に改装した例を取り上げて、災害時における必要な各室の面積規模の算定の資料にしている。第8節では、バングラデッシュのヘルスケアサービスの供給体系、第9節では

今回のテーマにおける問題点のまとめを行っている。第10節では本研究の基本的問題設定と、第11節では仮説を提示している。第12節は第2章のまとめである。

第III章「ケーススタディ」は、4節に分かれる。

第1節では、ケーススタディの概要について述べている。第2節では、調査分析方法を論じ、第3節では、8つのケースについての分析を行っている。第4節ではこれらの分析結果について、各々結果の記述を行っている。

まず、診療所の分析からは実際の増築内容と余裕のスペース、また、機能的適合性、所要スペースと基準寸法、救急時の必要面積、そして災害時に移動して連結できる可動型医療ユニットについて論じている。

小学校に併設された災害時に稼動する災害時診療施設（PSSC）と都市部におけるプライマリーケアユニット（UPHCP）に関する分析からは、同様に実際の増築スペースと余裕スペースについて、現状の分析、可動医療ユニットとの連結方式について論じ、そして、設計の課題で学生から提案されたいくつかの方式についての解説を加えている。

第IV章「討論・結論」では、第1節で、災害時に稼動する小学校に併設された災害時診療施設（PSSC）における救急用の診療部門について、また都市部におけるプライマリーケアユニット（UPHCP）との関係、そして新築の施設においてどのようにこれらの機能を盛り込むかについて論じている。第2節では、災害時に実際に緊急医療ユニットがどのような貢献をするかについて、第3節では、可動医療ユニットのあり方、そして最後にこれらがユニバーサル・デザインの視点から考えられるべきことを結論づけている。

上記のように、本論文は、バングラデッシュの沿岸都市において、大暴風雨により浸水した都市部と周辺部の人々の災害による被害の軽減をはかるために、特に、医療と収容スペースの面から、実務的に分析し提言を行っているもので、バングラデッシュにおける今後の災害対策に対して建築な r びにその運用の面から大きく貢献する事が期待できる。また、台風の被害を例年受けている日本に対しても、この論文で得られた基本的な知見は多様な示唆は与えるものであり、建築計画学の発展に大きな寄与をしたと認められる。

よって本論文は博士（工学）の学位論文として合格と認められる。